

まちたん

～まちのお宝探検隊～

後世に伝えたい宝物

～庄川編～

庄川桜

御母衣湖畔の中野展望台にある樹齢約500年の2本の巨桜「アズマヒガンザクラ」は元々、湖底に沈んだ照蓮寺と光輪寺の境内にありまし

た。昭和34年、ダム建設中に現地を訪れた電源開発(株)初代総裁の高崎氏が、「巨桜が湖底に沈むのを惜しみ、「水没から助けたい」との熱い思いから移植が実行されました。

当時不可能と言われた世界に例を見ない大規模な移植は、1年7カ月後の昭和35年12月に完了しました。



2本の老桜は奇跡的に根つき、3代目総裁の藤井氏により「庄川桜」と命名されました。以降毎年、4月下旬から5月上旬に開花の見頃をむかえ、庄川町を離れた方々の故郷を偲ぶシンボルとなっています。

移植から現在までの約60年間、電源開発(株)御母衣電力所により、毎年、生育状況の調査、土壌改良や枝の剪定、雪づりなどの保護活動が行われています。土壌改良には庄川小中学校やまちづくり協議会の皆さんも参加し、地域のシンボルを後世に残す取り組みが行われています。

村芝居

江戸時代から約300年の歴史を有する庄川町の村芝居は、町内にある神社の前夜祭として、獅子舞とともに境内の舞台で奉納されます。芝居や舞踊を実演する10代～30代を中心とした方々は若連中と呼ばれています。若連中は、前夜祭の1カ月前から仕事の後に、日付が変わる頃まで練習に打ち



込みます。自分達で大道具なども制作する本格的なもので、芝居は人情時代劇を主流に受け継がれてきました。

しかし、担い手減少により、村芝居が奉納される神社も一時期は三社までに減少しました。

「前夜祭がないのは寂しい」との住民の声を受け、「色白山神社ではOBが中心となり、平成28年に10年ぶりに型にはまらない劇を復活させました。

村芝居は、黒谷白山神社(9月1日)、色白山神社(9月2日)、野々俣神社(9月3日)、庄川神社(9月14日)で毎年行われています。

昨年、市民文化会館で開催された第3回こだまぐれでは黒谷神社若連中を中心とした有志による、情緒あふれる人情時代劇を披露。観客を魅了しました。

今年には新型コロナウイルス感染症対策のため前夜祭は行われませんが、地元では、「村芝居」がないと秋を迎えられないと言われる程大きな存在となっています。

大切に受け継がれてきた伝統文化は、絶やすことなく未来に継承していかなければなりません。

白山ユネスコエコパーク

平成28年に、「白山がもたらす自然に感謝し、美しく豊かな郷土を築くこと」を目指し、庄川町全域が白山ユネスコエコパーク移行地域に登録されました。

庄川中学校では総合学習の一環とし



て、白山ユネスコエコパークを活用。地域について理解を深め、庄川地域を持続可能な社会にするために自分たちができることを考える学習に取り組んでいます。

また県指定天然記念物の「山中峠のミスバシヨウ群落」を保護するため、地元町内会や庄川小、岐阜大学などと連携し、雪解けを待つ電気柵を設置、種採取から発芽実践など個体数を増やす取り組みも行われています。

加えて惣則地区でも、ササユリ群生地には電気柵を設置し、草刈りや散策歩道の清掃など住民による保全活動が行われています。

小中学生や住民、関係団体、大学の連携による様々な活動により、豊かな自然の保護とそれを活かした地域の発展が進められています。

トワイライト・オン キャンペーン実施中!
9月は車両ライトを17:00頃に点灯させましょう。